生徒に見られるつまずき

語句や文、語彙などに興味をもち、主体的・対話的で深い学びに調べ、自らの表現活動にいかそうとする意識が低い

つまずき解消に向けた指導のポイント

　複数の資料を使い、より理解しやすい表現を考えさせることで目的に合った言葉を洗濯し、表現を考えることができるようにする

指導事例集ｐ．５７

１　学年・単元名　第２学年

「対義語辞典を作ろう！」

『類義語・対義語・多義語・同音語』（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

２　単元目標

資料（主に国語辞典）を使って、対義語辞典を作成することを通して、言葉に対する興味をもち、語彙を増やしていく。

資料①　単元計画

３　単元の内容

　　・各自担当の語句について、資料を使い「対義語」と「類義語」及び「意味」を調べる。

　　・「用例」について各自がオリジナルの「用例」を作成する。

資料①

資料②

資料③

資料④　生徒作品

　　・作成した「用例」を、４人班で推敲、校正を行う。

　　・語句のイメージを「用例」に関連させてイラストに描く。

　　・「オリジナル対義語辞典」を作成し、読み合わせをする。

４　本時の目標　　（全４時間　本時は第２次）

　　　第１次　自分が担当する語句について、複数の資料からより理解しやすい意味を選択し、表現を考えることができる。

　　　第２次　自作の「用例」を⒋人班で推敲し、文脈に即した表現を考えることができる。（本時）

　　　第３次　語句のイメージをイラストで表現することができる。

　　　第４次　「オリジナル対義語辞典」の発表会を通して、語彙を増やすことができる。

５　展開　**太字はつまずきに対する手立て**

　　◯第１次

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １　「対義語辞典」作成の意義を伝える。２　担当する語句を決める。　　　　　　　　　　資料　①　単元計画資料　②　対義語一覧 | ・　「言葉の意識調査」の結果を基に、単元のねらいを明確に伝える。* ４人班に４つの語句を割り当て、話し合いによって担当する語句を決める。

・　**机間巡視によって、個に応じた割り当てになっているかを、適時助言していく。** |
| 展開 | ３　複数の資料（自前の国語辞典、その他の国語辞典、対義語辞典、類義語辞典など）を使い、対義語、類義語、意味を調べる。 | ・**１つの資料だけでなく、複数の資料を比べることによって、よりわかりやすい表現を見つけさせる。**・　調べ方については、**４人班で助け合う。また机間巡視を行い、個別に助言していく。** |
| まとめ | ４　下書き用紙に、調べた内容と自作の用例を書く。資料　③　ワークシート | ・　**自作の「用例」は、辞書の「用例」を手本に、身近なテーマを題材にして作成するよう指示する。** |

◯第２次　（本時）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １　前時に書いた自作の「用例」の推敲ポイントを確認する。 | ポイント・　誤字、脱字はないか。・　主語述語のねじれがないか。・　文中において適切な使い方か。・　個人名を使っていないか。 |
| 展開 | ２　４人班で推敲する。 | **・　意見交流することによって、より文脈に即した表現を意識させる。** |
| まとめ | ３　清書用紙に、清書していく。資料　④　生徒作品 | ・　読みやすい大きさと形で書くように注意する。 |

◯第３次

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １　前時に作成した自作の「用例」を確認する。 |  |
| 展開 | ２　語句の意味と自作の「用例」からイメージするイラストを考え、描く。３　４人班で「イラスト」に表現された考えを交流する。 | ・　**具体的に描きすぎず、単純な構図で誇張して描くように指示する。****・　他者の意見を参考に、用例とイラストが合致しているか吟味させる。** |
| まとめ | ４　清書する。 | ・　色鉛筆を使い、**より視覚的にわかりやすく表現させる。** |

◯第４次

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １　「オリジナル対義語辞典」を製本する。　　　　　　　　　　　⑤　⑥資料　⑤　冊子の表紙 |  |
| 展開 | ２　担当の語句について発表していく。 | ・　**仲間の作成した「用例」と「イラスト」から語句の使い方やイメージを広げさせる。** |
| まとめ | ３　単元全体の振り返りを行う。 | ・　資料を使った調べ学習を通して、**「言葉」に対する意識がどのように変化したかを振り返り、今後の学習意欲を喚起していく。** |